

道軟連会報

2022年度 前期号
2022.7.6
第81号
発行所
北海道軟式野球連盟
札幌市豊平区豊平5条11丁目1番1号
発行者 奥山英明
編集者 総務部
印刷所 岩橋印刷株式会社

二〇二二年度定時評議員会の開催

新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置期間延長のため三年続けての書面による議決

二〇二二年度定時評議員会を三月十二日（土）に札幌市内のホテルノースシティにて開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が道内各地でも発症収まらず、まん延防止等重点措置の適用期間が延長されたことから当連盟もこの対策に即応し、支部評議員の書面による議決をお願いしたところです。

議題は、各種事項の報告及び承認案件、協議事項などが評議員全員の賛同を得て無事書面採択され新しい年度がスタートしました。

以下は、二〇二二年度の主な各部署の事業推進計画です。

① 総務部事業推進

・引続き、健全な組織運営と安定

的な財政運営に向けた見直しや

検討を行い、軟式野球を通じたジュニア世代の育成と生涯スポーツとしての健全な取組みを進めます。また、育成強化部との連携でスポーツ障害の予防対策等の検討に入ります。

・適宜、規約・規程等の見直しを行い、支部との連携を強めながら、組織全体の活性化を図ります。また、コンプライアンス（法令遵守）の意識向上と取り組みの強化を行い、国民的スポーツである軟式野球の普及に努めます。

・会員への周知事項や大会速報等の確かな情報の迅速な提供を行い、その情報の浸透化や共有に向けた「ホームページと会報」

の充実を図るため、リニューアル等に着手します。また、引き続き北海道大会などにおける「コロナウイルス感染症対策」を講じ、安全で円滑な大会運営の確立を目指します。

・チームの軟式野球に対する意識高揚を図るため、各北海道大会の戦績に基づいたポイントによる格付けの「番付表」を発行します。

・「放送員」や「公認記録員」向けの講習会に講師を派遣するなど、スムーズな大会運営に向けたスタッフの育成に努めます。

・今年五月に北見・網走支部で開催する「第四十四回東日本軟式野球大会（一・二部）全国大会」と八月に札幌市で開催する「令和四年度全国中学校体育大会（軟式野球）」の成功を目指し、関係者との連携を図ります。

②

育成強化部事業推進

・成長期のスポーツ障害予防・指導者講習会、少年野球指導者研修会の実施

・公認スポーツ指導者養成講習会（専門科目）の実施

・第四十二回高円宮賜杯全日本学

③

審判部事業推進

・童大会南北代表チームへの出前強化指導の実施

・支部及び地区審判講習会の実施による審判員の資質向上と技術の普遍化を図る

・北海道東北ブロック全軟連審判技術指導員研修会への技術指導員の派遣

・公認審判員試験の実施

・審判部役員、技術委員、支部審判部長、支部技術員合同会議と研修会の実施

・審判ユニフォーム検討委員会の開催

なお、「二〇二二年度連盟功績賞受賞予定者」については、理事会など機会見て表彰を行う予定でおります。

△功績賞受賞者▽

- ・浜師 芳広 氏（西胆振支部）
- ・井下 章 氏（後志支部）
- ・小林 将彦 氏（日高支部）
- ・松川 一洋 氏（旭川支部）
- ・戸田 宏 氏（中標津支部）

二〇二二年度財政検討委員会の設置決まる

今般の評議員会で財政検討委員会設置が報告され、下記評議員六名の方々が指名されました。お忙しい中、大変ご苦勞と思いますがよろしくご協力をお願いいたします。

- ・道南ブロック
室蘭支部 森元 俊明 氏
道央ブロック
石狩支部 村谷 栄治 氏
道央南ブロック
北空知支部 川本 滋 氏

- ・道東ブロック
根室支部 佐藤美喜夫 氏
オホーツクブロック
紋別支部 小林 昌史 氏
道北ブロック
名寄支部 瀬野 友寛 氏

☆道連の新しい役員(二〇二二・二〇二三年度期)が決まる☆ 〈本間会長の再選・理事長に奥山理事の互選による再選〉

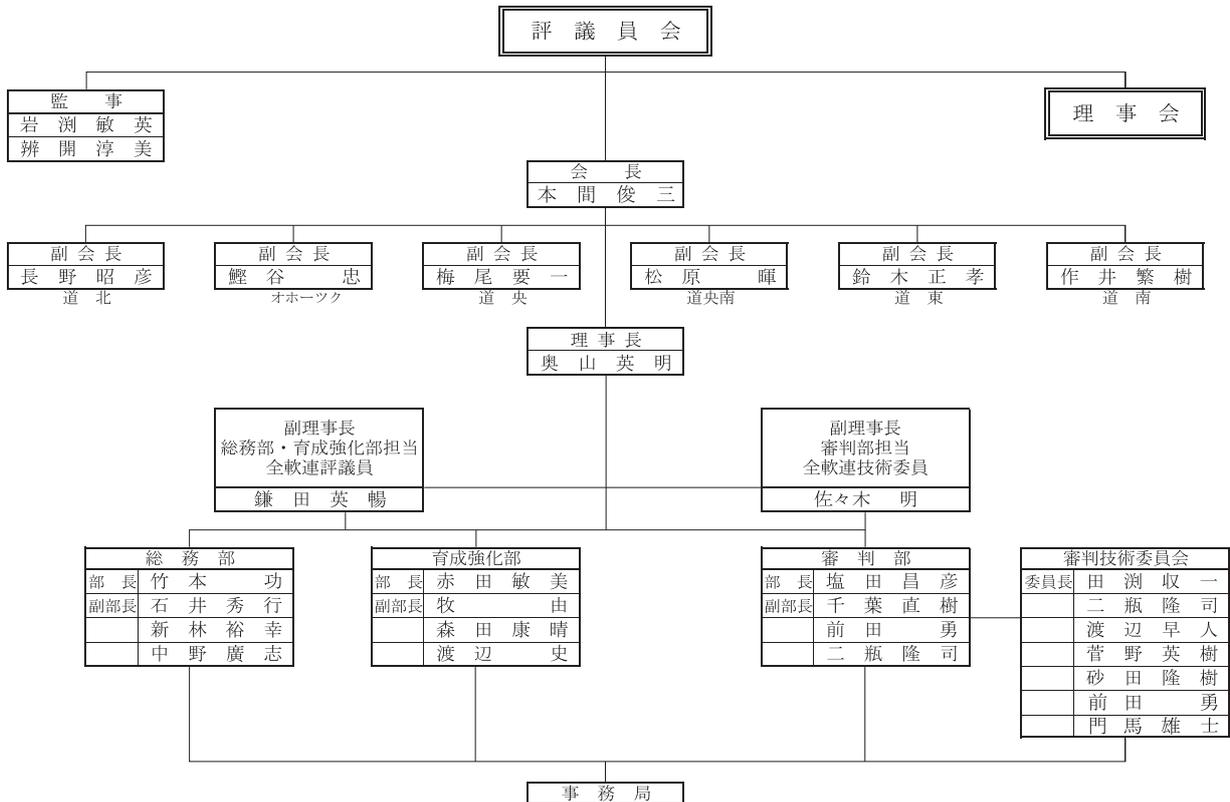
今年、道連の改選期にもあたり、副会長一名と理事一名が新しく加わり新体制も下図の通り決まりました。

なお、今般退任されました沼田副会長は顧問に、戸田・山田理事の兩名については参与に推挙されました。

三名の方には、大変永い間ご協力とご指導をいただき厚くお礼を申し上げます。



北海道軟式野球連盟組織図及び専門担当理事



〓二〇二二年度第三回理事会の開催〓

当初予定になかった理事会を久しぶりに対面方式にて急遽四月二十三日（土）市内ノースシティホテルにて開催しました。

協議内容は、

- ・二〇二二年度定時評議員会書面議決の結果について
- ・二〇二二年度北海道大会について
- ・第四回東日本軟式野球（一部）全国大会について 他



理事会会議場

なお、戸田前理事が出席されたので、本間会長より二〇二一年度功績賞の表彰が行われました。



戸田氏表彰

新しい道連役員・理事の横顔

副会長



作井繁樹氏

昭和43年
4月27日生

理事



二瓶隆司氏

昭和37年
5月19日生

- 平成23年 俱知安町議会議員
- 平成26年 俱知安町軟式野球連盟会長
- 平成30年 北海道軟式野球連盟後志支部支部長
- 令和3年 俱知安町スポーツ協会副会長
- 令和4年 北海道軟式野球連盟副会長
- 平成6年 中標津支部技術員
- 平成17年 全軟連審判技術指導員
- 平成30年 中標津支部理事長・評議員
- 令和4年 北海道軟式野球連盟理事

新しい各支部長・理事長・評議員 審判部長・技術員・事務局長等の紹介

函館支部 理事長・審判部長・事務局長



関口 隆氏

昭和25年
5月19日生

- 平成22年 函館支部 審判指導員
- 平成22年 函館支部 審判副部長
- 令和2年 函館支部 審判部長
- 令和4年 函館支部 理事長・審判部長・事務局長

函館支部 事業企画部部长



木村正寿氏

昭和37年
6月21日生

- 平成25年 二級公認審判員
- 平成28年 一級公認審判員
- 令和4年 函館支部 事業企画部部长

苦小牧支部 評議員・審判部長



玉井新一 氏

昭和48年
3月20日生

平成24年 一級公認審判員

苦小牧支部 理事

平成26年 苦小牧支部 技術員

令和2年 苦小牧支部 審判部長

苦小牧支部 副理事長

令和4年 苦小牧支部 評議員・審判部長

判部長

苦小牧支部 技術員



畑垣哲也 氏

昭和48年
4月16日生

平成27年 一級公認審判員

令和2年 苦小牧支部 理事

令和3年 苦小牧支部 技術員

旭川支部 審判部長



下山光一 氏

昭和30年
12月19日生

平成元年 二級公認審判員

平成5年 一級公認審判員

平成23年 旭川支部 理事

令和4年 旭川支部 審判部長

稚内支部 支部長



武山淳一 氏

昭和27年
12月25日生

平成16年 稚内軟式野球連盟 理事

平成20年 稚内軟式野球連盟 副理

事長

平成22年 稚内支部 常任理事

平成24年 稚内支部 理事長

平成28年 稚内支部 副支部長

令和4年 稚内支部 支部長

稚内支部 理事長



手塚光行 氏

昭和37年
5月17日生

平成18年 稚内軟式野球連盟 理事

平成25年 稚内軟式野球連盟 事務

局長

平成26年 稚内支部 常任理事

平成30年 稚内軟式野球連盟 副理

事長

令和4年 稚内支部 理事長

稚内支部 評議員



三輪秀木 氏

昭和39年
3月1日生

平成18年 稚内軟式野球連盟 理事

令和4年 稚内軟式野球連盟 副理

事長

令和4年 稚内支部 常任理事

令和4年 稚内支部 評議員

紋別支部 審判部長



河本佳尚 氏

昭和35年
7月19日生

平成6年 二級公認審判員

平成24年 紋別支部 理事

令和3年 紋別支部 審判部長

遠軽支部 支部長



今村則康 氏

昭和27年
2月7日生

平成12年 北海道軟式野球連盟 審判指導員

平成20年 北海道軟式野球連盟 理事

平成23年 遠軽支部 副支部長

令和2年 北海道軟式野球連盟 参与

令和4年 遠軽支部 支部長

十勝支部 理事長



小川敏也 氏

昭和36年
3月22日生

平成20年 帯広軟式野球連盟 理事

平成24年 十勝支部 理事

平成24年 帯広軟式野球連盟 副理事長

平成30年 帯広軟式野球連盟 理事長

令和2年 北海道軟式野球連盟 理事

令和4年 北海道軟式野球連盟 参与

令和4年 十勝支部 理事長

釧路支部 理事長・評議員



工藤幸栄 氏

昭和40年
10月1日生

平成24年 釧路支部 理事

平成26年 釧路支部 副理事長

令和4年 北海道軟式野球連盟 評議員

令和4年 釧路支部 理事長・評議員

中標津支部 支部長



戸田 宏 氏

昭和27年
1月27日生

平成6年 中標津支部 審判部長

平成17年 中標津支部 理事長

平成24年 北海道軟式野球連盟 理事

令和4年 北海道軟式野球連盟 参与

中標津支部 評議員



野田 勝 氏

昭和43年
6月12日生

平成28年 中標津支部 理事

令和4年 中標津支部 評議員

根室支部 支部長



成田敏明 氏

昭和28年
10月13日生

平成28年 根室支部 副支部長

令和4年 根室支部 支部長

特報！2022東日本全国大会の開催

大会を振り返って

第四十四回東日本軟式野球大会（一部）

愛知県代表チーム「中央発條」が優勝！！

新型コロナウイルス感染症の蔓延

により延期されました第四十四回東

日本軟式野球大会（一部）が去る五

月二十七日から三十日まで二十六

チーム（岩手県・山形県棄権）の参

加で北見市・訓子府町・置戸町の各

球場で開催されました。二十七日は

コロナ感染症対策のため市内のホテ

ルに於いて、チーム二名の参加で開

会式が行なわれました。

翌二十八日から試合が始まりまし

たが、前日の夜から降り出した雨の

中、大会スタッフの懸命なグラウン

ド整備のおかげで三日間予定通り大

会を行うことが出来ました。参加

チームに於かれましては、雨と寒さ

でコンディション維持が大変だった

と思われましたが、練習の成果を存

分に発揮し熱戦を繰り広げて大会を

盛り上げて頂きました。

結果、優勝は中央発條（愛知県）、

準優勝は旭山倶楽部（北海道北）で

した。

（北見支部副理事長 森谷広実）



1部 優勝チーム「中央発條」（共同写真企画提供）



監督会議

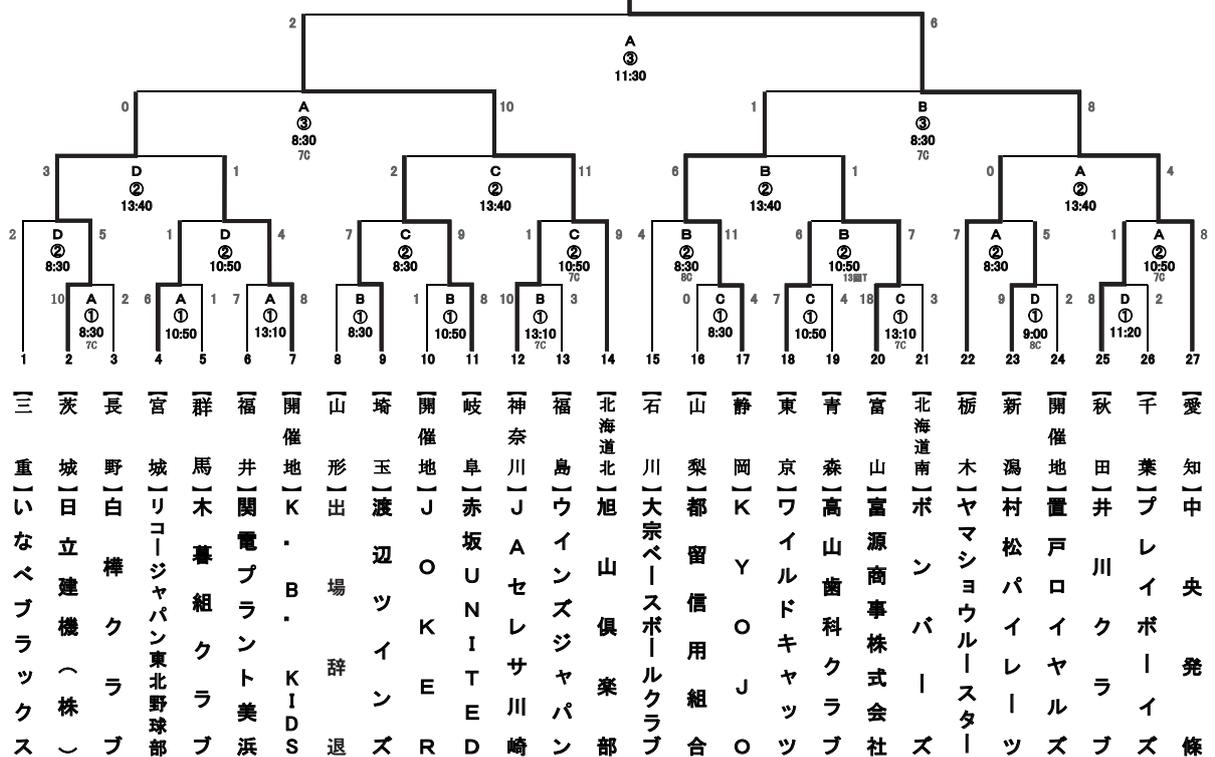


選手宣誓



本間会長挨拶

愛知県代表 中央発條





2部 優勝チーム「豊富産業株式会社」(共同写真企画提供)

式会社(富山)が一点を先制、その後、三回、五回、七回に追加点を加え、豊富産業株式会社の下口投手がオオタケサンライズ(石川)を零封し、結局六―〇で豊富産業株式会社が勝利した。

悪天候に加え、JSSBB感染予防対策ガイドラインに添って、ベンチの消毒・検温の実施など大変な面もありましたが、今大会の開催に当たりご尽力・ご支援いただいた道連



選手宣誓

派遣役員の方々に、派遣・交流審判員の皆さま、地元審判員・役員、運営に協力いただいた地元チームの皆さまのおかげをもちまして、本大会が無事に終了することが出来ました。

本当にありがとうございました。
そして、お疲れさまでした。

(網走支部 寺西 栄一)



開会式(共同写真企画提供)

2021

北海道大会熱戦譜

2021年に開催する予定にあった東日本（南・北）大会が、コロナ禍感染症がおさまらず今年春に延期開催したものです。

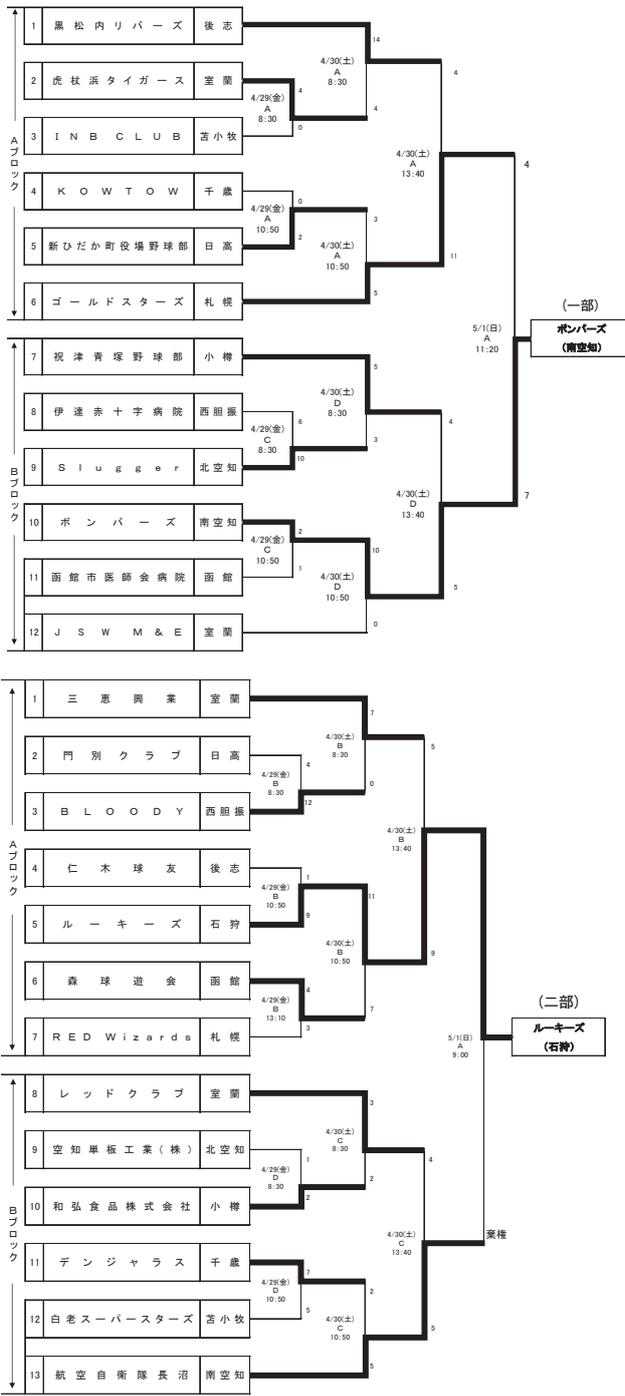
第四十四回 東日本軟式野球大会（一部・二部） 一部優勝 ボンバーズ（南空知支部） 二部優勝 ルーキーズ（石狩支部）

四月二十九日（金）から五月一日（日）の三日間の日程で室蘭市、登別市及び伊達市の四会場で、各支部の代表一部十二チーム・二部十三チームが全国大会出場を目指して熱戦を繰り広げました。

本大会は、昨年「緊急事態宣言」の適用を受け、大会会場の使用ができなくなったことに伴い、やむを得ず中止となっており、二年越しの大

また、昨年は八月末からの開催の予定であり、いくらか涼しい室蘭とはいえ、残暑の中の大会開催を予想しておりましたが、本年は四月末のまだまだ寒さが残る中での開催となり、球場本部席などでは、常にストーブを焚き、暖かい飲み物を準備するなどコロナ対策と合わせて、寒さ対策を講じながら大会を進めてまいり

ました。さらに、会場となった室蘭地区の球場は、例年の球場オープンが五月からであり、グラウンド準備にあたっては、支部役員自らがフェンスの応急修繕を行うなど、通常のシーン中とはまた違った光景を見る場面も多々ありました。さて、大会結果についてですが、一部は、安定した守備からリズムをつかみ、少ないチャンスで効率良く得点を重ねるゲームを展開した南空知支部代表のボンバーズが札幌支部代表のゴールドスターズとの





1部優勝ボンバーズ（雨天により室内）

激戦を制し見事優勝し、二部は、初戦から全力プレーと打力を武器に激戦を勝ち上がった石狩支部のルーキーズが見事優勝を果たしました。優勝した二チームの試合だけでなく各試合ともに、例年にはない四月中の全道大会に加え、コロナ禍で練習時間が限られた中であつたにも関わらず、それを感じさせない好連携のプレーや元氣あふれるプレーの数々が披露され、あらためて北海道のレベルの高さを感じることができました。

最後になりますが、開催にあたり、一昨年来のコロナ禍において、支部予選大会で本大会への出場権を得ていたチーム並びに関係者の方々におかれましては、昨年からの先の見えない状況であつたにも関わらず、日々練習等の準備を怠らず、本大会へ

第四十四回東日本軟式野球大会（一部）北・北海道大会 「圧倒的な強さで、旭山倶楽部（十勝）が 六年ぶりに全国の切符を手中に！」

ご参加いただいたことに感謝するとともに、本大会に御支援、御協力いただいた皆様方へ深く感謝申し上げます。報告とお礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。（室蘭支部リポーター 登山 利博）

稚内支部との分離開催となつた東日本一部北・大会は、五月七〜九日に留萌支部遠別町、初山別村で開催された。

選手はもちろん、運営側もシーズン始めであり、できる限りの準備を進め、雨を避け寒風吹きすさぶ中、三日間の日程を無事終えた。

決勝は、先攻、旭山倶楽部（十勝）、後攻テリスポーツ（中標津）で始まった。

この試合の見どころは、準決勝で六回までノーヒットノーランの好投を見せたテリスポーツの右の本格派、山口投手と旭山倶楽部の機動力を生かした攻撃、それと一番打者旭山・小笠原選手とテリスポーツ大

内選手の俊足が見どころであつた。

一回表、旭山倶楽部（以下、旭山）一番小笠原がライト前ヒット。二〇秒ルールの警告に動揺があつたか、エンドランを決められ、三番宇野がレフト前ヒットで二塁打、五番小川がライト前ヒットなどで二点を挙げた。

その裏、テリスポーツ（以下テリス）は二番森崎がライト前ヒット。四球で一・三塁となり、反撃のチャンスで四番杉岡がライト前ヒットで一点を返す。

二回表旭山は、七番上床ライト前ヒット。送りバント処理にミスが出て、一番小笠原がレフト前で満塁。ここで三番宇野がファースト強襲

ヒットで一点。さらに満塁で主将の四番鈴木がサード強襲ヒットでこの回三点を挙げる。

テリスは、単発のヒットは出るものの、旭山の上床・鈴木両ベテランの緩急とコースに投げ分ける投球を打ち崩すことができなかった。

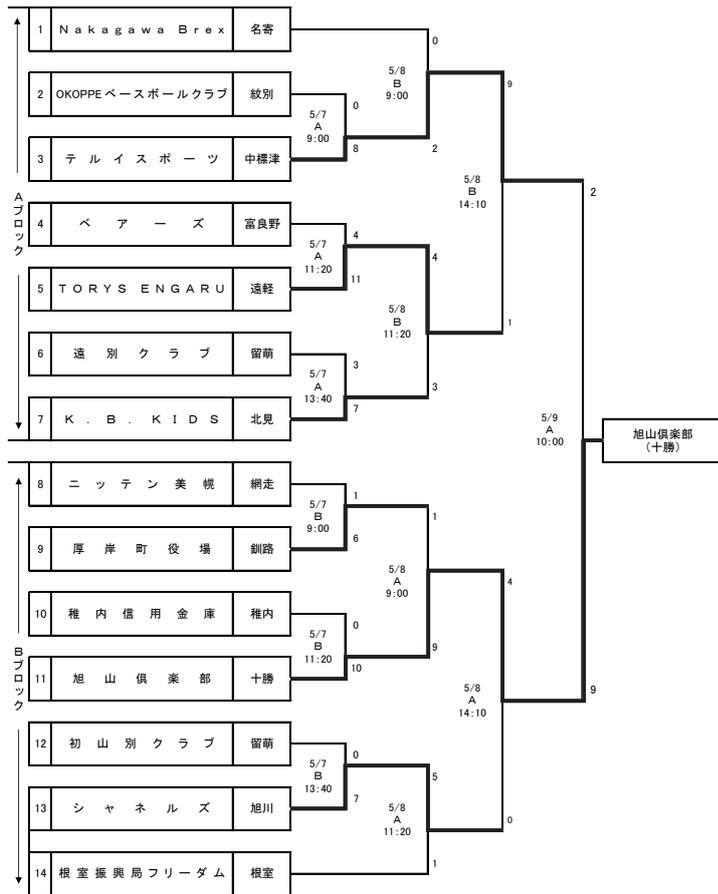
旭山は、一番小笠原、三番宇野、四番鈴木、九番鹿野がマルチヒット



鈴木（旭山）



遠別町長



を放ち、連投のテルイ山口投手を攻め、九点を挙げコールドゲームで、全国の切符を勝ち取った。

旭山鈴木主将は、「シーズン序盤でもあり、細かいミスが出てしまった。地元に戻り練習で細かいプレーを確認する。全国大会では、ベスト四を目指す。個人としては本調子ではなかったが、地元初山別学園にあっせんして貰った「岬センター」の食事と露天風呂のお陰で二安打で

きた。」とリップサービス。気配り上手の一面を垣間見せる。

なお、閉会式には、遠別町笹川洗志町長が公務ご多用の中、ご臨席頂き、ご挨拶を頂いた。

急遽決まった全道大会であり、遠別・初山別連盟のスタッフ、そして留萌支部・道北五支部交流審判員の方々の協力なくては開催できなかったことを報告します。

(大会ごぼれ話)

初日第三試合には、支部推薦の「初山別クラブ(監督原洋己)」が参戦。守備において、一塁・二塁鎌田兄弟、三塁・遊撃手が笠川主将兄弟(何れも双子)という、アナウンス泣かせの一場面があった。

決勝では、初の審判長となった砂田指導員が、気温ひと桁、風速一〇メートルを超える中、半袖で通すという気迫のこもったジャッジを見せたことを併せて報告します。

(留萌支部 理事長 辨開 淳美)



1部 優勝「旭山倶楽部」

第四十四回東日本軟式野球大会(二部)北・北海道大会

二部 優勝 釧路市役所!

第四十四回東日本軟式野球大会(二部)北海道大会は、本来、今年の九月に開催されるはずの大会で新型コロナウイルス感染拡大で中止延期となり、五月七日から五月九日までの期間、最北の街・国境の街である稚内市大沼球場を主会場として、北・北海道各支部を勝ち抜いた(二部)の精鋭十二チームが熱戦を繰り広げました。

また、この大会は、当支部で平成一八年に第二九回東日本軟式野球大会(一・二部)北・北海道大会を開催以来、一六年振りの開催となります。

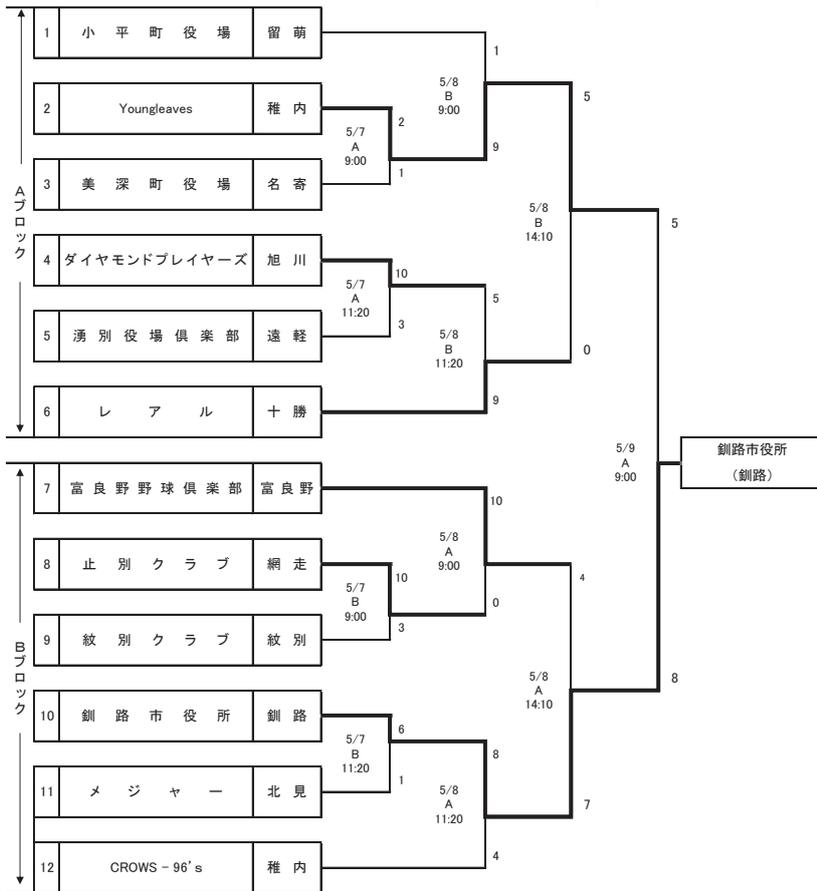
五月の北海道大会の開催は、当支部では初めてであり、気候的にどうなのか、新型コロナウイルス禍での開催にも心配の声がありました。感染防止対策を徹底し大会運営に臨

みました。

大会は、地元代表の「Youngleaves」、十勝支部「リアル」、富良野支部「富良野野球倶楽部」、釧路支部「釧路市役所」がベスト四に勝ち進み、決勝は、地元「Youngleaves」と「釧路市役所」の対戦となり、「釧路市役所」が制し、全国切符を手に入れました。

大会期間中は、肌寒い気候でしたが、道連、道北ブロックをはじめ大会関係者に多大なご支援とご協力をおいただき、無事、全日程を終える事ができ、厚く感謝申し上げます。

(稚内支部 薄田 嘉継)



支部トピックス

千歳支部

「審判講習会」

令和四年度千歳支部審判講習会が、道軟連から砂田氏（全軟連審判技術指導員）を迎え、当日は各連盟の学童指導者二〇名の参加を得て総勢四十五名で行われました。午前の座学で規則改正、必携改訂を学び、午後舞台をグラウンドに移し、数カ月ぶりに体を動かすという猛者も含め実技を行いました。審判経験の無い学童指導者は別動隊として、主に基本を午前中から繰り返し行っただけですが、この日受講した中から一人でも多く実践デビュー出来るよう、今後連携をとっていきたくと考えています。我が千歳支部の講習会は毎年日にちを固定しています。これは、これから講習会の重要性が増す中、一人でも多く受講するためには決まった日程で行い予定を組み易くする事が、出席増に繋がるのではとの考えです。技術員が大会派遣の為不在ではありましたが、砂田氏の丁寧な指導、また、様々な質問にも親

(千歳支部 鳴海 晃)

石狩支部

「支部定時評議会を開催」

去る四月十六日（土）に支部定時評議会を開催し、令和三年度事業報告・決算報告及び令和四年度事業計画・予算等の審議を行いました。

昨年度は、天皇賜杯北海道大会と国民体育大会にてどちらも準優勝したJA北いしかりや北海道知事杯ではJA道央が準優勝、マスターズ大会ではcleanがこれまた準優勝と優勝とはいかなかったもののコロナ禍にあっても負けじと奮闘・活躍が目立った年でもありました。

また、本年度においては、役員改選を行い、五期九年目となる山田支部長からは、次代を見据え、役員一同、これまでの経験とチームワークで支部のより一層の発展を目指そうということを確認し合いました。

本年度は、当支部での全道運営はありませんが、引き続き道央ブロック各支部と連携協力するとともに、

事業の推進にあたっては、競技マナーの指導徹底をはじめ、野球規則の遵守や円滑な大会運営など、一年間の活動を全員で確認し、終了したところだ。

(石狩支部 リポーター 剣持 司)



支部定時評議会

「石狩支部審判講習会を開催しました!」

石狩支部

五月一日(日)に当別町にて支部審判講習会を開催しました。

シーズン初めのこの時期に、今年度の野球規則・競技者必携の改正事項の確認及び基本的事項の確認を目

的に座学と実技を交えて行いました。

昨年度は新型コロナウイルスの影響を受けて中止となっていたことから、この審判講習会の位置づけが非常に重要なものとなりました。

北いしかり農協会議室で行った座学では、野球規則の改正及び競技者必携の改訂事項を確認。参加者皆さん、真剣な眼差しで説明を聞いている様子が何え、積極的に質問を投げかける姿が見受けられました。

その後は球場に場所を移し、ジュエスチャールやゴーストアップの基本的練習のほか、球審の基本的動作、各塁での基本的事項の確認と一塁でのフォースプレイの判定練習などを行い、動きなどを再確認しました。午後からは、ノック形式のキャッチングゲームを行い、場面を想定した実践さながらの動きを確認する事ができました。

技術員となって数年、ようやく人前で話すことにも慣れてきましたが、説明して人に伝えることの難しさを毎年この講習会で感じています。一年一年成長していけるようこれからも精進したいと思います。

最後に、今回の講習会を開催する

にあたり、寒い中、熱いプレイで審判員の技術向上にご協力いただいた当別中学校、西当別中学校の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

(石狩支部 審判技術員 高田憲一)



南空知支部

「二〇二二年度シーズン審判部の動向」

毎年恒例となっておりますシーズンはじめの審判講習会ですが、南空知支部としましては、初の試みとして、座学と実技を分け二週にわたる講習会を開催しました。

はじめに、座学は四月十七日南幌町生涯学習センターを会場に、本年度の規則及び競技者必携等の改正点、特に投手の十二秒及び二〇秒ルールの取り扱い基準の説明を受け、また、公認審判試験の過去問題を事例に、適切な処置方法を名和審判部長が解説するなど、年齢に関係なく初心に戻り深い学びを広げることができました。

次に実技は、翌週の四月二十四日南幌町営野球場を会場に、各塁での基本動作に始まり、球審では、三班に分かれての投球判定を繰り返し行いました。

さらに、五月一日には、道央南ブロック講習会を月形町で開催させて頂くなど、審判員にとっては、シーズンはじめに、多くの学びの機会を頂きました。

二〇二二年度におきましては、新型コロナウイルス感染症が治まることを願い、選手・審判員が安全で安心して試合に臨める環境づくりを心掛け、皆で力を合わせて頑張りましょう。

(南空知支部 事務局 西脇 圭一)



旭川支部

「旭川支部審判講習会を開催」

旭川支部において令和四年四月十日(日)及び四月十七日(日)の二回にわたり、審判技術講習会を開催しました。それぞれ当支部所属審判員・中学校野球指導者協議会から合計四〇名ほど参加いただきました。四月十日には座学として令和四年度公認規則改訂と競技者必携改訂の説明を行い、さらに四月十七日に行われる実技講習のカリキュラムの説明を行い、実技講習がスピーディに、より効率的に実施できるように配慮しました。

四月十七日には東光ドリーム球場において、一般チームから二チームの協力を頂き、実技講習を行いました。午前中のカリキュラムでは投球判定(トラッキングの習得)とノック形式でフォーメーションの習得に努め、午後からは実戦で起こりやすい事例のキャンブゲームを行い、規則適用と正確な判定の確認も行いました。

今年の特徴として旭川支部では朝野球は二人制審判で実施していますので、ノック形式で球審・塁審の動

きの習得に努めました。また、今後三回シリーズで二人制セミナー(座学)も予定しています。

今年はなかなか気温が上がらず、審判員の健康面が心配されますが、長いシーズンを無事に乗り切り、そして各大会がアクシデントなく終了できるよう頑張りたいと思います。

(旭川支部 下山 光一)



旭川支部

「少年(学童)野球指導者認定講習会」を実施しました

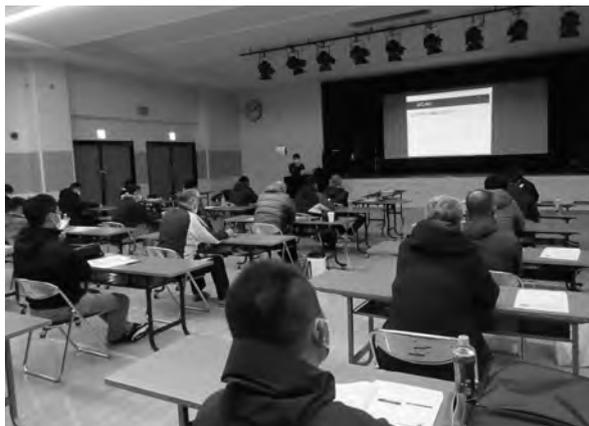
旭川支部の「少年(学童)野球指導者認定講習会」は、一九九一年(平成三年)から、少年(学童)野球の指導者(監督・コーチ等)を対象に、選手への正しい指導技術を身に付け、野球を通じて青少年の健全育成を目的に実施をされており、今年で三十一回目を迎えました。

今年度の講習会は、三月一日に旭川市の隣町、鷹栖町の北野地区住民センターの一階大ホールで実施いたしました。

例年、「少年野球指導者」講習会の参加者は、一チーム三名〜五名の受講者で約一三〇名位の受講が有りますが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大時期と重なり、感染予防対策の一環とし大きな会場を予約し、一チーム一名の限定で三十五名の受講者で開催されました。

この講習会の受講修了者に対し、五年間有効の顔写真入り「少年野球指導者証」を発行しています。

指導者証を取得された監督、コーチは、旭川支部主催大会や、依頼大



会では「少年野球指導者証」をユニホームの胸に着けて試合に臨むことが義務化されています。(指導者証の無い方はベンチにはいれません)

今年度の講習会の内容は、「少年団活動と指導者の役割」を竹本理事長、「スポーツ指導者と倫理」ガイドラインを中心に「李沢事務局長、「野球肘の予防」投球動作指導の重要性と注意点」を理学療法士の小迫伸也先生、「指導者のためのスポーツと栄養」を大塚製薬(株)旭川出張所 竹川 悟課長補佐、「学童期におけるスポーツの動機づけ」を北海道教育大学旭川校准教授 小谷克彦先生

の五名に講義をいただきました。

三十五名の受講者は、それぞれの項目で指導者としての役割、自覚や指導技術、練習時の選手への言葉遣い、指導者の言葉を選手がどの様に理解し受け止めているか?等を具体的に講師から説明を受け、選手への向き合い方を改めて勉強していただきました。最後に成りますが、三数年前に旭川支部の先輩役員が「少年野球指導者講習会」と言う素晴らしいシステムを構築していただきました事に感謝し、現役員の我々が継続し発展させて行く事の重要性を再認識いたしました。

(旭川支部 少年部長 大澤 秀二)

十勝支部

「十勝支部審判講習会」

五月八日(日)十勝管内所属の審判員及び学校関係者、総勢九十七名の参加により帯広の森平和球場にて審判講習会が開催されました。

コロナ感染症対策として受付時の検温確認に時間がかかり、開始時間が若干遅れてしまいましたが特に大きな問題もなく始まりました。

実施内容についてはコロナ禍を考



慮し、規則改正等の座学をグラウンドの外野芝生上で行い、その後にはグラウンド内で実技を実施しました。なかなか感覚が戻らず悪戦苦闘していた方が多いようでしたが、次第に感覚が戻ってきたのか、声も大きく出せるようになっていました。

この講習会を通じ、受講された方々の真剣な眼差しを見て、我々関係者も更なる底辺の拡大に努力しなければと思いを新たにしたいところです。

(十勝支部 事務局 加藤和博)

連盟各部近況報告

●育成強化部

「二〇二二年度 公益財団法人日本スポーツ協会公認コーチ養成講習会」開催！

今年度は、「新型コロナウイルス感染症予防対策」マニュアルに従って、今のところ事業は予定通り進めております。

NPO法人北海道野球協議会と連携をとりながら行っていた、スポーツ指導者養成講習会についてオンライン講習となるため講習資格を付与



サン・ビレッジいしかり 実技



サン・ビレッジいしかり 座学

することが認められないことから、今年は、来年四月一日資格認定していただくために、六月初旬から独自開催を行っています。参加者は八名と少ないですが何とか全員合格してほしいと思います。
このままスムーズに事業を進めていきたいと願うばかりです。

編集後記

コロナ禍も収まりきららない中で、三度目の野球シーズンがスタートしました。

今年の北海道大会も、ご案内のとおり、そのコロナの影響で昨年中止となった、第四十四回東日本軟式野球大会（一・二部）の南大会が室蘭支部で、北大大会が稚内支部・留萌支部で始まるというイレギュラーな幕開けとなりました。

また、五月には引き続き同大会の全国大会が、雨と寒さに見舞われた悪条件の中で、北見支部・網走支部で開催され、いずれの大会も何事もなく無事に終了することが出来ました。これも担当された開催地支部の事前準備が素晴らしかった事と、何よりも地元連盟の皆さんのご協力のおかげだと思います。良い見本を見せていただきありがとうございます。

さて、これから暑い季節を迎えますが、そこで心配なのが熱中症と脱水症状です。特に学童と審判員の皆さんには気を付けていただ

きたいと思います。子供は体温調節機能が未熟で、熱中症になりやすく、また地面近くで活動しており、大人に比べて暑い環境にさらされているそうで、試合中は夢中になって水分補給を忘れることもあるので、周りの大人の目配りが大切です。また、審判員の皆さんも試合中だからと我慢せず、インニングの合間を利用した水分補給など、自衛に努めてください。

いずれにしても、今年一年が事故なく無事に楽しく野球シーズンを終えられるよう、良い年にしたいものです。

（総務部理事 新林 裕幸）

